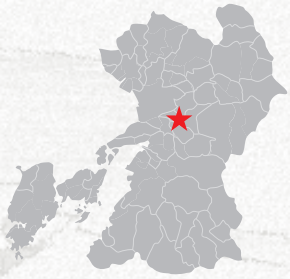
清正公の治水工事が生み出した商工業の町

御船町御船・滝川地区

【町並みの分類／商人町】

旧造り酒屋のある町並み

町並みについて



◆御船町の中心部に位置する同地区は、古くから日向往還の山間部に入る玄関口として重要な地でした。加藤清正による治水工事や、豪商林田家などが尽力した御船目鑑橋の架橋などにより、農業とともに発展した酒造と鋳金等の商工業の町として、御船川左岸を中心とした町並みが形成されました。

◆町並みは、江戸末期から明治にかけて県下屈指の酒造の町として栄え、かつて「白壁の町」と称された面影が随所に残っています。また、当時の活況ぶりを示す一例として、西南の役の際に戦火を避けて熊本県庁が二日間だけ同地区に移転した“二日県庁”の記念柱も残っています。

町並みの中心（核）となる伝統的建造物

1802年建築の商家（現 御船街なかギャラリー）

◆最盛期には造り酒屋が12軒あったといわれる同地区を代表する規模と質を有する商家です。主屋は切妻造・平入りの大型の町家建築で、棟札で確認された建築年は享和２年（1802年）建築であり、県内最古級のものです。

◆主屋とともに中庭を囲むように北蔵、南蔵が配置されており、江戸期から明治期にかけての建物群が作り出す景観は圧巻です。

◆かつての造り酒屋から幾多の所有者の変遷を経て、平成26年４月からは「御船街なかギャラリー」として、地域の人々が集う新たな拠点に生まれ変わっています。

御船街なかギャラリー（手前）と“二日県庁”（奥）

同地区周辺は、かつて目まぐるしい変転をたどりました。西南の役後は、通称「浜線」の開通により県央の交通拠点として発展しましたが、昭和初期にかけての不況が酒造業に大打撃を与え、街なかの景観を一変させました。現在も、熊本都市圏の道路網整備に伴い景観が変わりつつありますが、まさに「御船街なかギャラリー」のオープンは同地区の変遷を象徴しているかのようです。